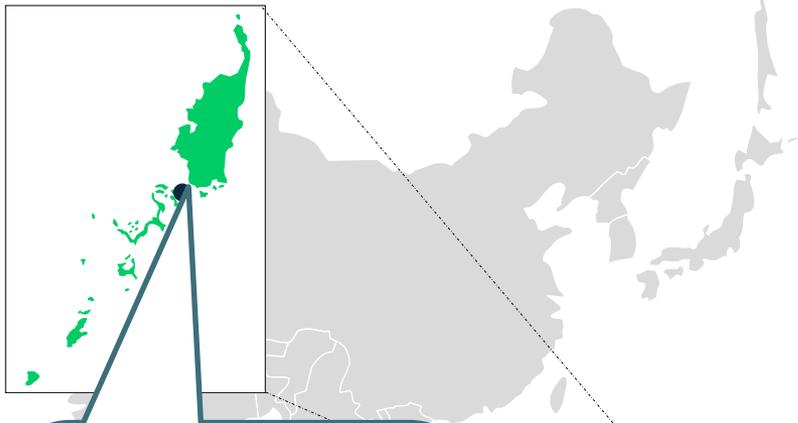


# パラオ共和国コロール州-北九州市に関する都市間連携

- ・系統に負荷を掛けない再エネ導入推進のため、PVを活用した商用EV車両(観光EVバス、廃棄物収集運搬EVパッカー車)を走行させることで化石燃料使用量を抑制する運送モデルの事業実現可能調査を行う
- ・アマタ株式会社と北九州市を中心にこれまで同州の廃棄物事業の検討をサポートしてきた交流実績を踏まえ、同州との都市間連携のもと観光分野や廃棄物分野における脱炭素に資する案件の可能性調査を実施



## パラオ共和国コロール州

- ・島嶼国という特性から化石燃料由来の発電に極度に依存
- ・国として2025年までに45%を再エネで賄う目標を設定
- ・太陽光発電が急増し、系統の不安定化が課題
- ・包括的循環型社会構築プロジェクトを計画中

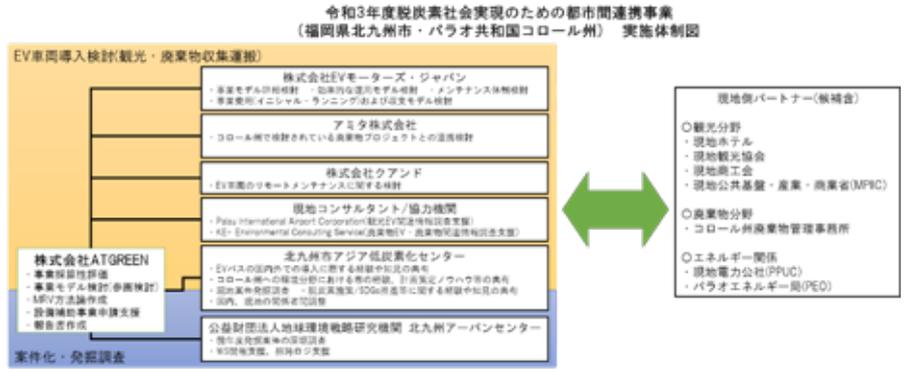


## 北九州市

- ・2025年度までに公共施設の実質再エネ100%電力化を目標としている
- ・2050年ゼロ・カーボンシティ宣言
- ・環境、SDGsに精通した市内ステークホルダーが多数存在
- ・内閣府「SDGs未来都市」、OECDの「SDGs推進に向けた世界のモデル都市」にも選定

# パラオ共和国コロール州-北九州市に関する都市間連携

## 【体制図】



【写真】 本事業で導入を検討するEV車(観光バス)



## 【事業活動・成果】

### 活動

- ・観光、廃棄物収集運搬の両分野へのEVおよび充電設備導入に際する事業性評価および現地ステークホルダーとの合意形成協議
- ・国内のEV路線バスの先行導入事例の調査を行い、運行やメンテナンスの課題を把握
- ・現地進行中の「包括的循環型社会構築プロジェクト」の関係者との定期MTGに適宜参加(現地廃棄物事務所、ADB等)
- ・設備設置時のファイナンス手段としてリースの可能性を検討(リース会社へヒアリング調査)
- ・現地ステークホルダーを対象に事業成果の共有、ディスカッションを目的としたワークショップを開催(予定)

### 成果

- ・現地利害関係者(公共インフラ通商省大臣、商工会会長、複数の現地ホテル等)より再エネ導入目標貢献への期待を寄せられている
- ・先進地域より観光バスのEV導入を複数行う場合には計画的な配車、充電、エネマネの重要性を確認
- ・州内の資源循環を目指した「包括的循環型社会構築プロジェクト」の中に、EVパッカー車の活用を位置付けていく為の協議を現地廃棄物事務所と国際機関と連携しながら実施